

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070600323		
法人名	有限会社グループホーム恵の家		
事業所名	グループホーム恵の家		
所在地	群馬県沼田市沼須町750番地		
自己評価作成日	平成25年11月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成25年12月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特に力を入れている点:アットホームな雰囲気作り。利用者との職員が、食事中は同じ食卓を囲み、お茶の時間は同じソファに腰をかけお茶を飲み、個性的な利用者それぞれに合わせて、気さくに会話ができています。  
 アピール:職員の退職が少ないので、職員が利用者と共に共有する時間が長く、深い関わりが持てるので、お互いの安心感と信頼関係構築につながっている。最近2年間退職者はいない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームのケアは『利用者のペースを尊重した生活。トイレでの排泄。家族の思いを受け止め、信頼関係を築く。』ことを実践していきたいという管理者自らの経験と思いが基本になっている。利用者は家庭的な雰囲気の中で見守られながら、お茶を飲んだり歌を歌う人、本を読む人、テレビのニュースに関心を持つ人、猫の世話をする人、入浴準備をする人など、時には互いに助け合いながら生活している。利用者個々のかかりつけ医とは、定期受診の支援や往診の依頼等もお願いしながら、利用者家族が望む連携を医療機関に働きかけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りのあと、理念の唱和を継続中。 その上で、理念に基づく介護を実践している。	開所時に掲げた理念は、職員が共有しあえるよう毎朝唱和している。管理者は、生まれ育った場所であるため、地域とは相互に助け合いながら気軽に交流する姿勢を日々示している。	理念の項目に、意識して実践している地域密着型ホームとしての思いを盛り込んでみてはいかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションの掃除を継続中。町内の「いきいきサロン」と、催し物などで1ヶ月に一度は交流を持っている。	地域の組に入って活動している。近所づきあいで野菜をいただいたり、栗拾いをさせてもらったりしている。孫を連れて立ち寄り人やお茶を飲んでいく人もいる。『いきいきサロン』は毎回参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	沼須町の研修所に医師を招き「高齢者の身体的特徴と健康管理」という演題の講演を行い、地域住民に参加して頂いたことがある。 また、地域住民から認知症の相談・利用者の受入が多数ある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に民生委員が積極的に参加してくださるということもあり、特にいきいきサロンの交流が盛んで、地域の方と触れ合うサービス向上に一役かっている。	運営推進会議はこの1年で5回開催している。忘年会や防災訓練・講演会などのイベント時に開催することで多くの人や複数の家族に参加してもらえるよう工夫している。行政担当者は複数で参加した時もあったが参加できなかった回もあった。	行政関係者には毎回の参加をお願いしてほしい。会議録はホーム内に掲示したり参加していない家族にも報告しながら、より多くの参加を働きかけてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	当方の運営推進会議はもちろん、他施設や地域密着型サービス連絡協議会の催しにも積極的に参加して下さり、顔を合わせる機会が多々あるので共通の話題で相談等がしやすい環境にある。	『めぐみ通信』を発行した時には毎回行政担当者に郵送している。会議等にも参加しており、必要なことはその都度相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの周知と、職員が利用者を見守ることで、玄関を開錠するケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを周知させるためマニュアルが作成されている。玄関・テラスには昼間は施錠せず、自由に入出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルの周知と、入浴・清拭の際に身体を観察することで、不審なアザなどないか注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社外の研修等で学ぶ。現在、成年後見制度を利用している方はいないが、過去には制度の利用を支援したことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明の際、専門用語は極力控えるか、用いる際は分かり易い表現で補足するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、第三者委員を設けている。また、ご家族へ恵の家通信を利用したお知らせや、面会時にコミュニケーションを図り、ご意見・要望を頂き、運営に反映するように努めている。	家族の面会は多く、その際には職員も一緒にお茶を飲む時間を作って、気軽に情報交換できるよう心掛けている。家族とは長いかかりの中で、話をしてくれる時期やタイミングも大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見を聞くのはもちろん、日々の業務のかなでも意見交換はその都度行われている。	定例の月1回の会議でケアや行事について検討し意見交換をしている。隣接の小規模施設の職員とも日頃から行き来をし関わりを持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が業務に集中できるよう、希望休や勤務のリクエストに極力応じている。また、中退共に加入し退職金制度を導入することで、労働意欲が持続できるようにした。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は積極的に利用している。職員は、年に1回は何かしらの研修・講義に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が、地域密着型サービス連絡協議会の役員を務めていることもあり、同業者との交流を頻繁に行いネットワークづくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(小規模多機能ホームを開設後から)入所される方は、小規模多機能ホーム利用者なので、早期に不安や要望を把握でき、職員も顔なじみなので本人の安心確保につながっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、ご家族様にも安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設デイサービス・小規模多機能ホーム併設により、法人内で対応出来るサービスの選択肢が増え、本人とご家族のニーズに合わせた支援を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な介護にならないよう、残存機能を生かした生活を送っている。皮むき・裁縫・洗濯物を干したり畳んだり、出来ることはお手伝いして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会時から、本人の食事介助をしてくださったり、ドライブへ連れて行かれるご家族がいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が行きたいと訴える場には、できる限り足を運んでいる。 例)りんご園、駄菓子屋、各種催し物等	利用者が希望するところには出かけられるよう支援している。お金を持って駄菓子屋に行ったり、知人宅を訪ねたり、懐かしい場所で久しぶりの知人に会って昔を思い出した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でいることを好む方、複数で居たいと望む方、個々の利用者の要望に合わせたかわり合いに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらから催しのお知らせや、参加の呼びかけをしたり、ご家族から相談に訪れてくださることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が、ダイレクトに思いや希望を伝えてくることは希なので、普段から、本人並びにご家族との会話の中でニーズを発見し掘り下げるよう努めている。	日々の言動を大切にしている。外泊を楽しみにしている利用者の気持ちを家族に伝えたり、懐かしい場所に一緒に出掛けたり食べたいものを確認したり臨機応変に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の情報提供に頼るところが大きい。情報量が少ない場合は、本人が育った地域性や時代背景を本人との会話のいとぐちにして、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックはもちろん、利用者と同じソファに腰掛け、会話し、表情を観察しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態の変化に応じ、医師やご家族・職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。	介護計画は認定期間または状態が変化したときに見直している。モニタリングの記録は確認できない。	モニタリングを行うことで計画に沿った支援をしているか職員も確認できるため、毎月行っていただきたい。細かな変化や思いを確認し3ヶ月に1度の計画の見直しもお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌や申し送りだけでなく、連絡ボードを利用して、情報が確実に周知・実践されるように取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険事業という枠組みの中で、できる限り柔軟に支援しているという自負がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた自然のなかを散歩したり、近所で採れた野菜の皮むきや調理の手伝いを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の意向に沿った医療機関を受診している。本人の状態によって、その都度往診して頂いている。	それぞれのかかりつけ医との関係を重視し、定期受診の支援や状態によっては往診も依頼している。歯科の往診もお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師は在籍していないが、小規模多機能ホームの看護師に相談することがある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、ご家族に代わり着替えや洗濯物を持ち帰るなどの支援を行いながら、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを望むご家族が大半なので、早い段階で終末期の話をしている。普段の通院・往診をサポートして下さる医師と共に、終末期に向けた支援に取り組んでいる。	看取りの方針がある。看取りを希望する家族も増えており、状態に応じて相談している。かかりつけ医と連携しながら、終末期の支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、定期的に救急救命の講習を受けている。また、AEDを設置し急変時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月15日に、施設間の避難移動・避難経路確保を主とする訓練を行い、年2回は消防署員立会の元で避難訓練を行っている。	この1年では夜間想定総合訓練を2回実施。消防署の指導も受けている。毎月15日には相互交流もかねて、何方かで出火したことを想定し小規模多機能施設と合同の避難誘導訓練を行っている。備蓄はない。	毎月の訓練は継続するとともに、反省点や改善点を実績として残せるよう記録作成を期待したい。備蓄については検討をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	この地域独特の言葉に馴染みのない方には、少々乱暴に聞こえるかもしれないやりとりがある。それでも笑顔でやりとりできる、利用者との信頼関係が成り立っている。	『尊重』を意識した言葉遣いや対応をするよう心がけているが、時には地域独特のなじみの言葉遣いになってしまうこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を訴える利用者が少ないので、職員から質問して選択・決定していただく場面が多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的に行動できる利用者は、できる限り自由に過ごして頂いている。他の利用者は、職員の声かけや誘導を頼りに過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを考慮し、ご家族に用意していただいた衣服を着用している。ときには、家族の承諾を得て、職員が購入することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じ食卓を囲むようにしている。ときには、準備・後片付けをお願いしている。	季節の食材を取り入れたメニューを提供し、職員も一緒に食べており、その日の味付けやメニューが話題になる。下ごしらえや後片付けを一緒に行う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて全体量を調整している。特に、水分不足と食べ過ぎには注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3食後は必ず口腔ケアを行っている。義歯の方は、夕食後に義歯を外す。睡眠中は洗浄剤に漬けおきし清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	以前は便汚染で下更衣が頻回だった利用者が、定時のトイレ介助を習慣にしたことで、トイレでの排泄が日常的になった。	3カ所のトイレは各居室の中間にあり、どこからでも利用しやすい。タイミングを見ながら声掛け誘導をしている。排泄状況はホワイトボードに記載し、必要に応じその都度職員で話し合っ、統一したケアができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、水分摂取量に気を配っている。それでも便秘の方には、マグミットなどを服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を面倒だと訴える利用者が多い現状。ときには、好きな歌を聴きながら入浴していただく事がある。	希望に応じて毎日でも入浴してもらっている。職員2名で介助が必要な場合は午前中に支援している。入浴を拒否する利用者にも声掛けやタイミングなど工夫した対応を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の昼寝の支援の他は、昼夜逆転にならない程度に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が与薬を忘れないよう、タイマーをセットして服薬の支援に努めている。症状の変化が見られた場合は医師に相談して、その都度処方していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の手伝い、散歩、ドライブ等、個々の好みに合わせた気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	店舗に協力していただき、車椅子が入れる場所を提供してもらい外食会を行っている。職員が外出の提案をしたり、利用者の希望があれば外出できる体制はできている。	庭先に椅子を並べて日光浴をしたり、外食や季節の行事でドライブにも出かけている。個人的な希望での外出も支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	最近はお金を管理する利用者がいないが、以前は自分の財布を持って、駄菓子屋での買い物を楽しみにしていた利用者がいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日など、本人の記念日にお手紙を下さる家族もいる。年賀状や、親族・知人に電話をかけたい利用者の支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リラックス出来る生活感ができる程度の雑然さがある。冬場は床暖房を使用することで、過度な乾燥をふせいでいる。	キッチンと食堂が一体のため、食事の準備が視覚でも嗅覚でも感じることができる。ゆったり過ごせるスペースも確保されており、畳の上にソファが置かれテレビやDVDが楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、各自好みの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、ご家族が購入された家具を使用している。ソファを好む方には、お部屋にソファを用意した。	居室は個人の状況に合わせベットの高さを変えたり畳を使用している部屋もある。仏壇やタンス、テレビや家族の写真など思い思いのものが持参されている。居室でゆっくり本人のペースで過ごしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者・職員お互いの安心と安全のために、ホールが見渡せるよう、見守りの妨げになるようなものは置かないようにしている。		